

会員募集と年会費納入に関するお願い

■これまでのお支えに深く感謝いたします。
会費や協賛金のご送金は、なるべく「ゆうちょ銀行払込取扱票」をご利用ください。納付状況などご不明の点があれば、センターまでお問い合わせください。また、払込取扱票をお送りしますのでご連絡ください。

- ・年会費:個人 3000円 団体:5000円
- ・振込先のご案内
＜ゆうちょ銀行口座＞
・記号:02270-2 ・番号:116030
振込先名:会津放射能情報センター
- ＜他銀行からゆうちょ口座への送金場合＞
・店名:二二九 ・店番:229
・預金種目:2 当座預金 ・口座番号:0116030
- センター連絡先
tel&fax 0242-23-9401
携帯 080-6015-8036
メール info@aizu-center.org
開館日 水木金土 10:00～16:00

メーリングリスト（ML）登録に関して

■ML はセンターからのお知らせや会員同士の情報をネット上で交換する場です。登録された方には滞りなく届いているでしょうか。最近、届かなくなったなどの不具合が生じた場合には、センターまでご一報ください。

メールアドレスとホームページに関して

■メールアドレスが変わりました。
info@aizu-center.org

■ホームページが新しくなりました。
http://www.aizu-center.org/

HP を見てセンターにつながる方々も増えてきました。NEWS でご案内していない情報もございます。ぜひご覧ください。

センターの開館日が土曜日までとなりました。

次のプログラムは寄せられた会費・協賛金によって行われています
食品測定・健康相談会・尿検査・保養プログラム・にいがたはうす宿泊・学習会・裁判支援など

新しいプログラムが増えました
センターに寄せられるさまざまな声を反映したプログラムが生まれています。

夜のしゃべり場

「しゃべり場に参加したいけれど、仕事がある昼間は参加できない」という声から生まれました。
山崎知行医師が来館される隔月ごとに関われます。

甲状腺検査

「我が子の検査に立ち会い直接医師から説明を受けたい」との当たり前前の思いに応え実現しました。

ホットスポットファインダーの購入と勉強会

「瞬時に正確に測定できる、身の回りの放射線の値を知りたい」という声から、福島県内で広く活用されている機器「ホットスポットファインダー」を購入しました。また、多くの方が活用できるように使用方法の講習会も開きました。



～編集後記～
ホットスポットファインダーの練習のため、スタッフがセンターの周辺を歩いて計測した時の事。水路に仲良しのつがいの鴨を発見。微笑ましくてしばし和みました。(朋)



会津放射能情報センターNEWS 20号

〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36
TEL & FAX: 0242-23-9401 携帯: 080-6015-8036
メール: info@aizu-center.org ホームページ: http://aizu-center.org
公式ブログサイト: http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/ 2016年7月1日発行
Face book: 「会津放射能情報センター」で検索。

おしどりマコケンの「福島原発事故取材報告」in 会津若松 5月14日(土)

東電や政府の記者会見でのするどいツッコミでおなじみの、おしどりマコさんケンの報告会を会津若松と郡山の二会場で開催しました。会津は運動会と重なり、子どもの参加は難しかったのですが60名が参加。パワフルで興味深いマコさんケンさんのお話に大いに刺激されました。

真実をさぐる生き方にふれて 佐藤 方信

わたしは教員です。子どもたちに、平和のこと、あなたがいるから楽しいということ、学ぶことはおもしろいこと、そして本当のことを知ることは大切だけれど大変であることを教えています。さっそくマコさんたちのことを子どもたちに話しました。



「ぼくねえ、おしどりさんたちに聞いたんだよ。子どもたちにどんなことを教えていったらいいかって。そしたらね、いろんなことに『なぜ』って思うこと、そしてたくさん質問することを教えることだって言っていたよ。」と話しました。そして、子どもたちはいろんな質問をするようになりました。

おしどりさんの「脱してみる」のブログを見ると、福島県が白血病の患者の数を調査しないということに粘り強く聞き出していました。わたしは改めて思いました。真実を探り当てることの大切さを。マコさんたちの『なぜ』を追求しようとする誠実さを。

新たなプログラム「甲状腺検査」を始めました

センターでは、会員とその家族を対象に甲状腺エコー検査を始めました。地元の K 医師のご協力があった実現したものです。3月19日(土)の第一回目の検査には16名の会員や家族が受診、エコー画像を見ながら丁寧な説明を受けることができました。

事前には山崎知行医師を講師として「甲状腺検査勉強会」を開催。甲状腺がんやがんの疑いと診断された子どもが予想外に多く出てきているという事実の中、多くの方々が熱心に講義を受け「わかりやすく大変良い学びでした」「医師に言われるままではなく、CT やレントゲンなど、なるべく無用な被ばくを避ける努力をしたいと思います」という声も多く寄せられました。

福島県では、原発事故当時18歳以下の子どもたちを対象に、甲状腺エコー検査を行っていますが、事故当時19歳以上と事故後2年目以降に生まれた子どもたちは、福島県の検査の対象になっていません。さらに事故後に福島県に転入した子どもたちも対象外です。

センターでは、年齢を問わず検査を受けていただけるよう、今後も継続して実施していきたいと考えています。次回は8月に行う予定です。

会津放射能情報センター主催「春の神戸に遊びに行こう！」が、ふくしまこうべこどもプログラムのご協力のもと、3月30日から4月3日まで東神戸教会を拠点に行われました。参加した子どもたち6名は、温かい「おかえりなさい！」に迎えられ、楽しくて美味しい5日間を過ごしました。4月1日夕刻、同プログラムのみなさんとの交流会が企画され、子どもたちは会津の紹介と会津弁クイズを披露し、会場を沸かせていました。その後、日本基督教団兵庫教区のご協力を頂き、片岡輝美代表が感謝とともにセンター活動・原発震災現状報告を行いました。県内諸教会や子ども脱被ばく裁判支援者など



ホームズのコスチューム決まっている？



約70名が来場くださいました。子どもたちの笑顔と元気、そして声をご紹介します。

- ご飯がとてもおいしかったです。翠星
- 神戸で楽しむことができました。駿斗
- ごはんがおいしかったです。シャーロックホームズ記念館にまた行きたいです(^) 萌梨
- ありがとうございました。まど佳
- たくさんの思い出をありがとうございます！由季乃
- ありがとうございました。おかげで楽しかったです。英恵

「春のお泊り会 in あいづ」を開催しました

会津放射能情報センター第五期の活動目標のひとつに「会津地域から離れた会員との交流を大切にする」が挙げられています。春休みの一日を利用して、県外へ移住した方、浜通りの自宅へ戻った方、また、来年3月末の避難者家賃補助打ち切りに合わせて帰還を考えている方、転勤で県内他市に移動した方、そして会津若松で避難生活を続けている方々など大人7名子ども9名が会津の温泉施設に集まりました。移住・帰還・避難のどれを選択しても、「決して消えない放射能への不安」を、家族や地域で理解してもらうのはとても困難であると、涙ながらに語られ、私たちの繋がりを持ち続ける大切さを実感した一日でした。皆さまの温かいご支援により、この「一泊お泊り会」が実現できたことを参加者が心から感謝し、元気を取り戻し、それぞれの生活に帰って行きました。一緒にお泊りできた楽しさで別れがたく、泣きべそをかいている子もいました。

参加者の声

南相馬市から親子3人で参加しました。避難中のママ、避難を終えたママ、見守ってくれている輝美さんたちとのしゃべり場が印象的でした。話すうちに涙がこぼれました。

会津、新潟、中通り、浜通りと、それぞれの学校、家族、仕事のことで共感できたり、知らなかった情報には驚きがありました。

その間子どもは、遊び場でスタッフにみていただき感謝。

素敵なひとときをありがとうございました。

伊藤 三和



はしゃぎまわりました。あ～楽しかった！

いつも当センターをお支えくださり、ありがとうございます。会費・協賛金および支援品によりお支えいただきました方々のお名前を記載させていただきます。敬称は略させていただきます。また、特記なき教会はすべて日本基督教団です。万が一記載落としがありましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

個人

加藤ひろ子 山崎知行 大竹隆 高田順久 小林順子 齋藤久美 國分直美 石本敬子 田伏和子 栗山文昭 石橋宗明 中越洋子 大倉一美 メンセンディーク・ステラ 出羽利光 中川秀 坂本恭子 荒瀬牧彦 渡辺美国 高橋幸子 奥田尚子 野木晃子 滝川英子 小寺秀一 大嶋香織 新出愛子 東海林裕美 松岡佐和子 中山拓治 岡野裕恵 岡野正 大和田貴子 三原翠 武藤江身子 野間恵 ウェーラー・ルツ・エステル 福知千恵 宮本夏祐 片岡公子 片岡愛 黒川朝子 本田宏美 菊地栄 鈴木道也 鈴木摩耶子 松木弥栄子 龍崎靖子 山崎陽子 後藤由美子 村上ますみ 熊谷啓子 中村光一 高橋京子 戸枝正輝 明比輝代彦 鈴木善実 櫻井隆 櫻井國江 星幸恵 鈴木真弓 野崎恵美 バケット・トミー・真理 小出敏市

団体

秋田高陽教会 豊岡教会 いずみ愛泉教会子どもの教会 同志社教会 錦林教会 会津キリスト教連合会北海道クリスチャンセンター 津久見教会 大分・県南ブロック研修会 十日町教会 元江別わかば幼稚園 高石教会 兵庫教区女性会(日韓交流信徒大会) 柳井教会 経堂緑岡教会 富士見高原教会 洲本教会 神戸雲内教会 宇部教会 酪農学園 桜美林教会 泉北梅教会 石橋教会婦人会 天満教会 西国分寺教会 南大阪教会 甘楽教会 私立捜真小学校 相模翠ヶ丘幼稚園 四街道教会 幕張教会 神戸北教会 農村伝道神学校 大牟田正山町教会 鈴木道也「小さき声のカノン」上映・監督講演実行委員会 in 岩手 武蔵野扶桑教会 いずみ教会 永山教会 横浜英和学院 刈谷教会 霊南坂教会 大分教会 千葉教会婦人会 横浜港南台教会 池田五月山教会 高の原教会 田園調布教会 神戸多聞教会 台湾国際日語教会 三原教会 広島府中教会 鳳教会 鶴川北教会 名古屋YWCA 月寒教会 宇部緑橋教会 諫早教会 兵庫教区女性会神戸Aブロック委員会 神戸教会「放射能から子どものいのちを守る募金」 新潟教会 長崎飽の浦教会 城崎教会 姫路野教会 調布柴崎伝道所 広島西部教会学園めぐみ幼稚園 室蘭めばえ幼稚園 京都西田町教会 加古川東教会 溝ノ口教会 南山教会青年会 恵泉女学園大学キリスト教センター 島松伝道所 東北教区会津地区 神戸マスコワイア 廿日市教会 国分教会 東広島教会 旭川六条教会 小郡教会 主恩教会女性会 水口教会 岡崎教会こどもの教会 室蘭知利別教会 九州教区 神戸教会いずみ幼稚園父母の会 堀切教会黎明保育園おまつり広場 広島南部教会 西中国教区宣教委員会社会部 尼崎教会 八日市めぐみ保育園子羊会 伊丹教会 岩国教会 草津教会 山口中分区信徒大会 甲南教会ぶどうの会 防府教会 桜美林学園キリスト教センター 潮来友の会 北光幼稚園 フィーリー記念室委員会 佐敷教会CS 水口子どもの教会 千里聖愛教会 刈谷教会CS 神戸北教会子どもの教会 黒石教会 吾妻教会 カンバーランド長老キリスト教会 東小金井教会 香椎教会マルタマリアの会 喜多方教会 久万高原キリスト教会 美唄教会昼食会計 福岡女学院教会 ルーツライブ 2016 全国教会婦人会連合 佐世保教会 水元教会 東海教会 聖愛幼稚園 市川三本松教会教会学校 天満教会 日本基督教団核問題連絡会 藤沢大庭教会 倉敷水島教会 神奈川教区社会委員会 サンノゼウエスレー教会 札幌北光教会子どもの教会 翠ヶ丘教会 日本福音ルーテル教会女性会連盟東海教区 Dickinson College

支援品

近江兄弟社小学校 1年5年のみなさん 山崎知行 四国教区 松山城南高等学校 早稲田教会婦人会有志 千歳栄光教会 九州LOVERS長崎・木村 北岡美佐子 小林順子 坂本恭子 飛騨アジア・アフリカ救援衣料チャリティ実行委員会 九州ラバース鳥栖 四国教区 島松伝道所

- 2月
- 1日 会津放射能情報センターNEWS 19号発行
 - 1日 福島地検に汚染水告発上申書提出行動
 - 8日 来館：‘たこやきキャンプ’代表小野洋さん
 - 8日 センター2月役員会&懇談会
「これからのセンター活動を考える」
 - 10日 取材：週刊女性自身副編集長斉藤信悟さん・和田秀子さん
 - 12日 取材：朝日新聞記者國方萌乃さん
 - 18～20日 山崎知行医師を囲む会8名・個別相談6名
 - 20日 小林恒司医師心と身体の健康相談会6名
雑穀食堂昼食会12名
 - 20日 報告@おもてなし福島通訳ガイドの会研修会30名片岡輝美
 - 22日 来館：原田俊宏市議 リアルタイム線量計撤去の意見交換
 - 25日 子ども脱被ばく裁判第4回口頭弁論@福島市 片岡輝美
- 3月
- 2日 原発事故被害者団体連絡会‘ひだんれん’政府交渉全国集会
@日比谷野外音楽堂・デモ行進 片岡輝美
 - 5～6日 高里鈴代さん対談「沖繩と福島、いま私たちはここで生きている」@よつ葉春の交流会・兵庫県尼崎市 片岡輝美
 - 7日 センター3月役員会
 - 11日 東日本大震災を覚える日
 - 17日 山崎知行医師学習会「甲状腺検査について」11名
個別相談5名 夜のしゃべり場13名
 - 17日 春の神戸保養オリエンテーション
 - 18日 教団青年国際会議 in 京都2017準備会@放射能問題支援対策
室いずみ 片岡輝美
 - 19日 第1回甲状腺検査16名
小林恒司医師心と身体の健康相談会9名・個別相談3名
 - 19日 報告@名古屋キリスト教協議会40名 片岡輝美
 - 20日 奨励&報告@南山教会50名 片岡輝美
 - 25～26日 春のお泊まり会@大江戸温泉 子ども9名・大人7名・
スタッフ4名
 - 29日 報告@教団宣教師会議・仙台市 片岡舘也・輝美
 - 30～4月3日 春の神戸保養 子ども6名・スタッフ3名・片岡輝美
- 4月
- 4～10日 アメリカ支援団体感謝訪問報告@ウェスレーメソヂ
スト教会、アメリカ合同教会本部、共同世界宣教局
(CGMB)理事会 片岡輝美
 - 13日 センター4月役員会
 - 14日 しゃべり場 8名
 - 23日 小林恒司医師心と身体の健康相談会9名・個別相談5名
 - 27日 教団青年国際会議 in 京都2017準備会 @教団事務局
片岡輝美
 - 28日 報告@たんぼぼ舎30名 片岡輝美
 - 29日 来館：写真家さくちさかえさん
- 5月
- 9日 センター5月役員会
 - 12日 山崎知行医師個別相談2名・夜のしゃべり場9名
 - 13日 しゃべり場13名・個別相談1名
春の神戸報告会子ども6名・大人8名
 - 14日 個別相談1名
 - 14日 おしどりマコケンの福島原発事故取材報告 in 会津若松
60名 共催：子ども脱被ばく裁判の会
 - 16日～18日 横浜共立学園高一修養会@軽井沢
片岡舘也・輝美
 - 21日 小林恒司医師心と身体の健康相談会4名
 - 22日 トミー・バーケットさん滞在～6月8日まで
 - 24日～25日 東北教区総会出席 片岡輝美
 - 26日 子ども脱被ばく裁判第5回口頭弁論@福島市
片岡輝美・酒井恭子・トミー・バーケット
 - 27日 NHK取材・片岡輝美@郡山
 - 28日 報告@日本福音ルーテル教会東海教区女性会 焼津市
90名 片岡輝美
 - 30日 住まいを奪うな！ひだんれん・原訴連共同集会・デモ・
福島県申し入れ 片岡輝美・トミー・バーケット
- 6月
- 2日 来館：社団法人食改善機構3名
 - 4日 来館：米国・ディキンソン大学教員・学生6名
証言：野崎恵美・福知千恵
 - 6日 第23回福島県民健康調査検討委員会@福島市
片岡輝美・酒井恭子・トミー・バーケット
 - 9日 センター6月役員会
 - 16日 しゃべり場6名 来館：映画監督土井敏邦さん
 - 18日 小林恒司医師心と身体の健康相談会8名・個別相談5名
来館：NHKディレクター藤川正浩さん
 - 30日 「自律神経を整えよう。プチ講座」講師：出羽利光さん

4月4日から8日まで、私はアメリカの会津放射能情報センター支援団体や教会を訪れ、感謝と福島の実状を伝えました。この訪問は、東北教区被災者支援センター・エマオ専従者である佐藤真史さんの派遣に伴い実現しました。良き機会を与えられ心から感謝します。

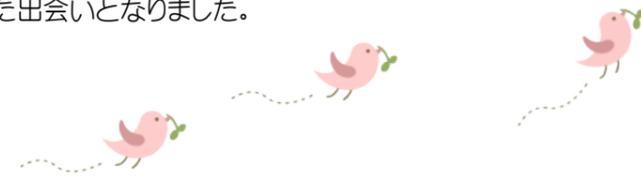
私たちは、5日間カリフォルニア州・サンノゼ、オハイオ州・クリーブランド、インディアナ州・インディアナポリスの三箇所を報告をしました。私の報告は次の3点。ひとつは、東京電力福島第一原子力発電所核事故直後から今日までの廃炉作業の現状。ふたつ目は、放射能汚染と安心安全キャンペーンから生命を守りたいと、市民が生み出した情報センター活動。三つ目は子ども脱被ばく裁判現状報告です。

既にアメリカでも、廃炉作業の厳しさや小児甲状腺ガン発症など多く報道され、質疑応答では放射能汚染や被害について質問や意見が集中しました。また、報告で紹介した汚染水が太平洋を流れる動画や太平洋沿岸に積み上げられる夥しい汚染土の動画に、大きな衝撃を受ける参加者が多くいました。特にカリフォルニア州住民には、福島原発核事故は対岸の火事ではないことを、改めて知らされたようです。

アメリカ合同教会(UCC)と共同世界宣教局(CGMB)は、情報センターを核災害の課題に向き合う最前線の活動拠点とし、4年間の若松栄町教会教育館家賃を支え、新潟教会共同プログラム「にいがたはうす」リフォームなどを支援していただきました。この2団体で、私たちは「パートナー」として紹介されました。日頃、私たちが考える「支援する者とされる者」とは異なる支援の関係を示された瞬間でした。UCC 職員の男性からは「自分たちができることは限られている。自分たちが担えない働きを担うお二人に感謝している」と挨拶がありました。しかし、UCCやCGMBは、世界で災害が起きれば迅速に職員を派遣し、被害と必要な救援の情報収集を行い、アメリカ国内外に支援を呼びかけ、人的金銭的支援を瞬く間に開始します。また、戦禍や人権侵害が続く地域にも宣教師を派遣しています。その起動力・行動力を持つ団体が、自らの働きを謙虚に受けとめ、私たちがパートナーと呼ぶのです。

私は、原発核事故以降参加したいいくつかの国際会議で知ったのは、無数の生命を蔑ろにする現実です。今回のCGMB 理事会でも、私たちの報告の後、世界各地の現状報告がありました。遊びに行くと笑顔で家を出た我が子が、その直後爆撃に合い、一瞬で生命を落としたイラクの母親の悲しみを聴きました。余りの辛さに、私たちの課題など小さいもの…と考えてしまいそうですが、それは違つと、私は自分に言い聞かせます。「痛み比べ」をすることで、自分の前にある課題が見えなくなり、それは取るに足らないと考え、自ら口を閉じてしまいます。目前の課題に向き合うことは、「人権の回復」を求めるとの働きにもつながります。この5年間、原発核事故の向こうに見えるてきたのは、『命どう宝』の社会を実現するため、長年差別に抗い人権回復を求め闘う人々の姿です。

CGMB 理事会後の食卓で、世界の最前線で活動する人々はお互いを労り励まし、大きな声で笑いお喋りをしていました。長年、コロンビアで環境教育に携わった女性が、福島原発核事故を我が事として憂えていました。原発の危機を伝えながら、現実に核事故が起き、しかし5年も経てば世界が無関心になっていると、嘆きながらも「放射能被害を恐れる人々の無事を祈り続けます」と、ステキな笑顔で約束してくれました。世界の痛みを知り、自分が為すべき事に真摯に向き合う人々は、本当にパワフルです。その力を与えられた出会いとなりました。



2011年3月11日。想像していなかった恐ろしい大地震に見舞われたあの日、私たちにはそれぞれの貴重な体験がありました。今回は会員の齋藤久美子さんが出かけた先の仙台で大地震に見舞われ、帰宅困難者となった状況をお聞きしました。今回は地元に戻ってからの出来事、特にAちゃんとの出会いについてお聞きしました。

避難所でのAちゃんとの出会い

Q.ご自宅がある喜多方に戻ってまず何をされましたか？

仙台から戻った翌日(14日)、喜多方押切体育館に避難所が開設されていました。私は仙台で被災し帰宅困難者になり、見知らぬ大勢の方に助けて頂きましたので恩返しのため、6月に避難所が閉館になるまでほぼ毎日通いました。

Q.避難所に毎日のように通って気付いたことはありますか？

避難している方に何が必要で何ができるだろうかと話を聞かせて頂きました。その都度自宅から古着を持ち込んだり、友達に連絡して直接体育館に持ってきてもらいました。また、私は歯科衛生士なので、皆さんの口腔内が気になりました。入れ歯を忘れてきた方を歯医者に連れて行ったり、おかゆを持って行ったりしました。遊びまわる子どもたちには、夜仕上げ磨きを呼びかけて体育館を朝から晩まで見回っていました。

高齢者の方や赤ちゃん家族には我が家のお風呂を提供し畳で横たわって頂き、一緒にお茶をしたりしました。小さな赤ちゃんのいる家族が伊達に戻ると決めた時は夜眠れず泣き続けました。何家族か我が家で食事会をしたり、次への出発に水やお米など持って行って頂きました。毎日通っていたので私を覚え下さる人も増えてきて、あちらこちらから声がかかるようになりました。避難所で出会った皆さんのことを綴った宝物ノートを見ると懐かしく思い出されます。

Q.女の子との出会いについて教えてください。

「子どもが歯が痛いと言うので見てもらえますか？」と一人のお父さんに声をかけられました。その子の口の中を見たら、6歳臼歯がむし歯になっていたの、歯医者に行くように伝え、仕上げ磨きをしてあげました。Aちゃんは小学3年生の目がククリした可愛くてとても人懐っこい女の子でした。お父さんと二人暮らしで、原発近く(30KM 圏内、緊急避難区域)で被災し、喜多方まで車で避難。その後東京に避難が決まったということで、Aちゃんが必要になるであろう道具や服を一緒に買い物をして見送りました。

4月16日のA子ちゃんのお誕生日に電話をすると、お父さんの仕事の都合で一緒に暮らすことは難しく、Aちゃんを養護施設に入れることにしたと聞き、咄嗟に「喜多方に来てもいいんだよ」と言っていました。「もしかしたらAちゃんがくるかも？預かってもいい？」と主人と子どもたちに相談すると、主人は「生ものだぞ。人間だぞ。大丈夫か？」と心配していました。主人は夜中一人、テレビ録画してあったAちゃん親子をみていました。代々木体育館から始業式にいく避難者家族が放送されていたことが思い出されます。こうして家族の理解のもと、Aちゃんは4月18日喜多方に来たのです。

4月19日、Aちゃんは喜多方の小学校に転校しました。白板に担任の先生が名前を書いたのを見てAちゃんの思いやこれまでを想像し、「この子を大切にしたい」と思ったら涙が流れ、泣けてしまいました。

「なぜ久美子さんは泣いたの？怒られたわけでもないし怖かったわけでもない。悲しかったの？」とAちゃんに不思議そうに尋ねられました。



「Aちゃんが喜多方にきてくれたのが嬉しかった。ありがとうと思ったら泣けたの。涙はうれしくても感動しても出るんだよ。Aちゃん、何でもお話ししてね。」と言いました。

Aちゃんは学校に行き始めると今までの疲れが出たのか、インフルエンザ、胃腸炎、アレルギー、腎盂炎等に次々にかかりました。私は原発や放射能のことがよくわからなかったの、いろいろな講演会に行くようになりました。

5月8日に二本松で「チェルノブイリのかげはし」の野呂美加さんの話を聞いた時はショックと同時に「これはチェルノブイリだけの話ではない。まさに今の福島の話だ。今Aちゃんを守らなくては」と気持ちを切り替えることができました。

Q.久美子さんが非常に悲しい思いをされた「牛乳事件」について教えてください。

Aちゃんはアレルギーもあったので、給食の牛乳をやめたいと連絡帳に書いたところ、校長室に呼び出され、校長先生と一対一で話すことになりました。小学校には歯科衛生士としてブラッシング指導に何年も通っていましたので、最初はこやかに話していましたが、話題が牛乳のことになると想像もしない場面へと展開していきました。

校長先生から「牛乳をなぜ飲まないのか？測っているんだ。大丈夫だ。校長会でも勉強している。」と、すごい剣幕でまくしたてられ、「今話したことは誰にも言うな」とまで言われ、あまりのことに体が震えて言葉が出ませんでした。当時牛乳の放射能汚染が取り沙汰され、給食の牛乳を飲ませることを心配する保護者が多かったことも事実で、校長先生も過剰に反応したのでしょうか。帰宅した私にAちゃんがすぐ「どうだった？大丈夫？」と尋ねてきてくれました。緊張の糸が切れたのでしょうか。その言葉で涙があふれてきてしまった私に彼女はハンカチを差し出してくれました。思わぬ事態に深く傷つきましたが、Aちゃんに救われました。Aちゃんありがとう。また夜、「大丈夫？」と訪ねてくれる仲間もいて「ありがたいな。幸せだな。」と感じました。

Q.Aちゃんはその後どうしていますか？

Aちゃんは、3年間を喜多方で過ごし、小学校卒業を機に、故郷の南相馬に戻りお父さんと暮らしています。中学3年生になった今も連絡を取り合っています。先日、剣道の試合が会津若松であり応援に行きました。部長をしているAちゃんは審判もかっこよくこなしていました。剣道着を着たまま私に向って笑顔で「またね！」と手を振ってくれる成長した姿から、一緒に過ごした貴重な3年間が蘇ってきました。

Aちゃんは私にとっては4人目の^{こども}娘です。これからも彼女の成長をそして幸せを見守っていきたいです。Aちゃんと3年間過ごせたのはAちゃんのお父さん、主人、子どもたち、センターの皆様のおかげです。本当に支えて頂きました。ありがとうございます。



しゃべり場担当の久美子さんは、ニコニコ笑顔と涼やかな綺麗な声の持ち主。しゃべり場にいつもお手製の美味しいお菓子やパンを持ってきてくださいます。人が集まる場をばあっと明るくさせる久美子さんは、まさしくヒマワリのような女性です。(朋)

